

はくさん

第37巻 第1号

目次

P2

生物多様性の確保
菅野康祐

P4

白山の室堂に侵入したオオバコは何年で花をつけるのか？
野上達也

P8

白山麓の植物を探る1 ～サツキ～
本多郁夫

P10

ブナオ山観察舎
作品コンテスト

P14

はくさん
山のまなび舎だより
谷野一道

P16

ライチョウ70年ぶりに
白山で確認
上馬康生

ブナ林の四季～チブリ尾根・初夏～

5月中旬、市ノ瀬からチブリ尾根を登っていくと樹冠を覆う高木層のブナ、ミズナラ、トチの淡緑色の葉を透かして、初夏の日光が差し込んでいます。その下には、カエデ類、オオカメノキ等、数種の本木・草本が葉を広げています。葉が茂り、日の光が十分届かなくなる前の今のうちに少しでも日差しを得ようとする植物たち。夏本番を前にして、その息吹を感じることができる季節です。

大木のブナが生育する下で、ブナの稚樹を見ることができます。発芽して2年～3年と思われます。春に芽を出したブナの実生が秋まで生育できるのは全体の2%という報告もあります。運よく年を越した稚樹も、ブナの高木が枯れたり倒れたりしない限り、若木まで成長することはできないでしょう。

ブナ林からの水や落ち葉の肥料を恵みに葉を広げる植物がいる中で、ブナは自身の子孫のためにはなく、ブナ林に生育するすべての生き物の母として生きているといっても過言ではありません。
(吉本 敦子)



ブナの稚樹

生物多様性の確保 ～自然公園法の改正～

菅野 康祐（環境省白山自然保護官）

「生物多様性」。おそらく、ほとんどの方がどこかでは聞いたことがあると思います。「生物多様性」とは何でしょうか。生き物がたくさんいることでしょうか？

マダガスカル島の東にモーリシャス島という島があります。大航海時代に発見されたこの島には、体重が20kgを超えるドードーという大型の鳩が生息していましたが、1681年にはその姿を消してしまいました。原因は食糧確保のための捕獲や人間が持ち込んだ動物による捕食が原因と考えられています。また、この島にはカルバリヤの木という固有種も生育していますが、1970年代には樹齢300年以上の古木ばかりで、若木が無く、散布された種子が発芽していないことが分かり

ました。スタンリー・テンプルという学者はドードーとほぼ同じ大きさの七面鳥に食べさせた種子が発芽したという結果から、ドードーに食べられた種子が胃袋や砂嚢で傷つけられ、排出されて発芽し、世代交代が行われてきたと指摘しました。つまり、ドードーに食べられなければ種子は発芽しないのです（その後の研究により、発芽にはインコやコウモリなどの関連も指摘されているようです）。

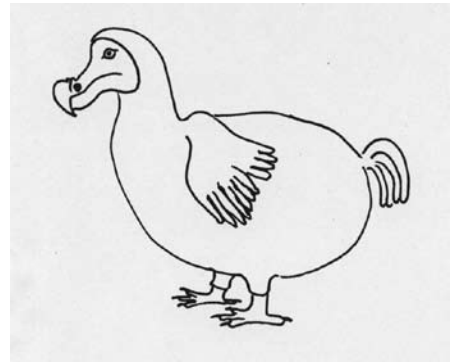
このような生き物同士の繋がりは、もちろん私たち人間（哺乳綱サル目ヒト科）にもあります。例えば、森林は生き物に酸素を供給したり、土壌中の水分を保持したりする機能があります。そして、森林の土壌では微生物が落ち葉を分解し、土壌中の有機物を豊かにしています。もし、微生物に異変が起きれば落ち葉は分解されず、土壌が痩せて森林が衰退したり、酸素の供給が減少したり、土壌中の保水力も減少し土砂崩れや洪水が発生し易くなるかもしれません。

生物多様性について環境省のホームページでは『生き物の「個性」と「つながり」』であり、「遺伝子の多様性」、「種の多様性」、「生態系の多様性」の3つのレベルに分けられると説明しています。かみ砕くと、全ての生き物にはそれぞれ特徴や個性があり、その多様な生き物同士の複雑なつながり・関わり合っている状態が「生物多様性」と言うことになると思います。そのため、ドードーとカルバリヤの木のように、ある種が受けた影響が巡り巡って他の種に影響を及ぼすことになるのです。

生物多様性は生き物が存立する基盤であり、私たちは他の生き物から酸素や食べ物、薬、着るものなど多くの恵みを受けています。しかし、近年、その生物多様性が損なわれつつあります。原因は人間活動による環境汚染や乱獲、里山の荒廃、外来種による生態系のかく乱などで、地球温暖化による危機も懸念されています。



三方岩岳駐車場付近に生育するフランスギク



ドードー

私たちが管轄する国立公園でもその危機が顕在化しつつあります。例えば、南アルプス国立公園などではニホンジカによる自然植生の食害が深刻化し、高山植物群落や湿地が衰退しています。また、富士箱根伊豆国立公園ではネズミ駆除の目的で三宅島に放たれたイタチの食害により、オカダトカゲやアカコッコ等の希少な爬虫類・鳥類の個体数や島固有の生態系に影響を与えています。動物だけでなく、オオバコやオオハンゴンソウなど、本来はそこに生育していない外来植物の侵入も多くの国立公園で確認されています。白山でもオオバコやフランスギクなどの侵入が見られます。

また、人為的に持ち込まれたとされているコマクサの生育が白山自然保護センターにより確認・調査されています。コマクサの生育により、白山本来の景観が失われるだけでなく、生育環境が重なるイワツメクサや訪花昆虫などに影響を与え、高山帯の生態系へも少なからず影響する可能性が考えられます。



白山に人為的に持ち込まれたコマクサ

このように国立公園でも生物多様性の危機が増大しつつあることから、自然公園法が改正されることになりました。まず、公園の目的に「生物多様性の確保」が追加されます。また、特別保護地区に加え特別地域*でも本来は生息していない動植物(環境大臣が指定するもの)の放出等の禁止も追加されます。さらに、ニホンジカの食害により劣化した生態系などを効果的に回復させるために生態系維持回復事業が創設されます。この他にも海域の保全策の充実などが盛り込まれ、生物多様性の保全を推進していくこととなります。

このように法律は強化されますが、それを運用し対策をしなければ意味のないものとなってしまいます。オオバコなどの外来植物対策については引き続き、多くの団体・ボランティアと協働し対策を実施していきたいと考えています。また、コマクサの対策については今年度から取り組む計画です。白山の生物多様性を保全するために、少しずつでも、その対策を実施していきたいと考えています。



2008年室堂での除去活動に参加した43名のボランティアの方々。この他にも南竜・市ノ瀬・三方岩岳駐車場周辺・赤兎山でも除去活動が行われています。



中部地方環境事務所が制作したパンフレット表紙(生物多様性について分かり易く紹介しています)

生物多様性については以下をご参照下さい。

- ・中部地方環境事務所パンフレット http://chubu.env.go.jp/to_2009/data/0413a_1.pdf
- ・環境省 HP <http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>

*特別保護地区と特別地域について

・特別保護地区

国立公園の中でも特に優れた自然景観、原生的な自然環境を保持している地区で国立公園の核心地域となっています。

・特別地域

優れた自然環境を有している地域で、国立公園の核心地域である特別保護地区を取り囲んで国立公園外からの影響を緩和する役割もしています(緩衝地帯)。

白山の室堂に侵入したオオバコは何年で花をつけるのか？ ～白山の高山帯でのオオバコの生長～

野上 達也（石川県白山自然保護センター）

はじめに

白山では白山外来植物対策事業として、ボランティアによる低地性植物の除去作業が、室堂（標高約 2,450 m）では 2004 年からスズメノカタビラを中心にオオバコ、フキ、シロツメクサを対象に、南竜ヶ馬場（標高約 2,080 m）では 2005 年からオオバコ、シロツメクサ、スズメノカタビラを対象に、それぞれ行われています（除去の様子については、「はくさん」第 33 巻第 3 号で紹介）。しかしながら、これらの低地性植物は踏みつけや刈り取りなどのある人為的攪乱環境に適応した雑草であるため、いったん侵入し定着してしまうと、完全に除去するのは容易ではありません。今回は、2005 年に室堂に侵入したばかりのオオバコについて、侵入直後とその後の個体数と個体の大きさの変化について調べた結果について紹介するとともに、あわせて、南竜ヶ馬場で実施した除去作業後のオオバコ群落の変化や最近、白山の垂高山帯以上で新たに確認されたオオバコの分布状況についても紹介します。

室堂に侵入したオオバコは何年で花をつけるのか？

室堂センターの五葉坂側の平坦な場所で 2005 年にオオバコの侵入が確認されました。この場所は、2001 年に室堂センターの改築工事が出た残土を整地のために投入されています。また、2004 年の秋には、し尿処理タンクが低地からヘリコプターで運ばれています。そのため、これらの作業の際にオオバコの種子が持ち込まれて 2005 年に芽を出したと考えられました。2005 年 7 月 28 日に初めてオオバコの生育が確認されたのですが、同年 8 月 19 日に記録された 329 個体はすべて出芽後 1 年未満の実生と判断されました。その後、2006 年、2007 年にも個体数のほか、葉の枚数や大きさを計測し比較してみました（図 1, 2）。その結果、室堂のオオバコの個体数は、2005 年では 329 個体（100%）、2006 年は 107 個体（2005 年の個体数に対する割合 32.5%）、2007 年は 82 個体（同 24.9%）と、年々減少しました（図 1）。

オオバコの分布は、2005 年では室堂センターの建物の階段の脇、基礎部分、コンクリートで固められたマンホールや止水弁の周囲、ロープ柵の周囲に集中していましたが、2006 年には、マンホールや止水弁の周囲のオオバコはほとんど消失していました（図 3）。

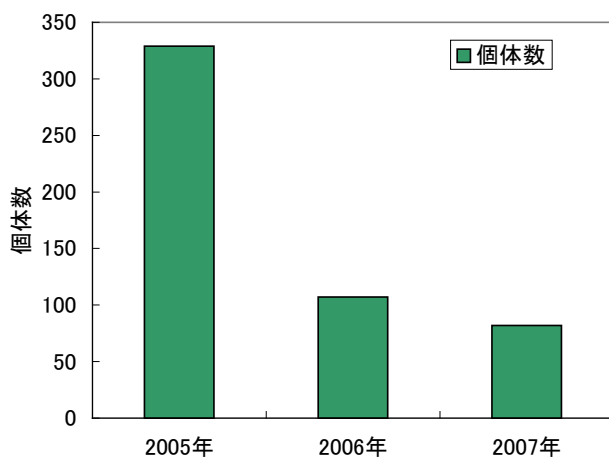


図 1 2005～07 年に室堂におけるオオバコの個体数の変化

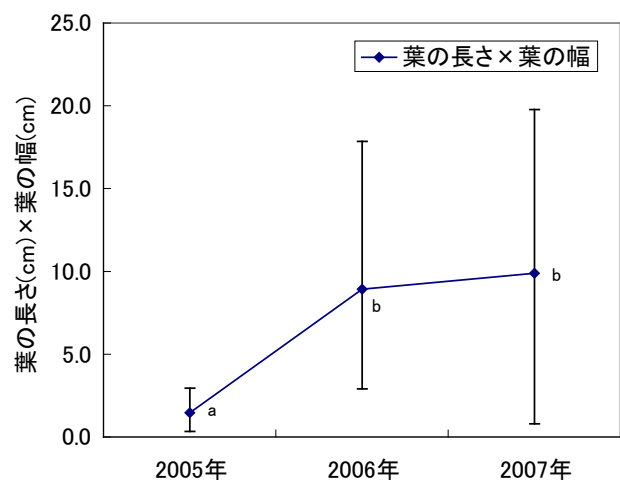


図 2 2005～07 年に室堂におけるオオバコの個体サイズ（葉の長さ×葉の幅）の変化
バーは標準偏差。異なるアルファベット間には Scheffé の方法による対比較で有意水準 5% で有意な差があることを示す

南竜ヶ馬場のオオバコはどうだろう？オオバコ除去作業後の様子



写真1 南竜ヶビン前のオオバコ除去調査
(2005.10.6)
矢印がオオバコ除去区



写真2 南竜ヶビン前のオオバコ除去調査
(2006.7.27)
矢印がオオバコ除去区



写真3 南竜ヶビン前のオオバコ除去調査
(2006.7.27)
多数の実生が発芽している。矢印は実生ではない個体



写真4 南竜ヶビン前のオオバコ除去調査
(2006.8.27)
除去区外のオオバコは開花しているが、除去区のオオバコは未開花



写真5 南竜ヶビン前のオオバコ除去区のオオバコ
(2006.9.26)
除去区のオオバコも開花、除去区外のオオバコは結実



写真6 南竜ヶビン前のオオバコ除去区のオオバコ
(2006.10.20)
除去区のオオバコも結実（一部の花茎では開花）

これらの範囲は人の踏みつけが多く、ほぼ裸地化しており、ミヤマガラスなどの幼植物と、以前から侵入しているスズメノカタビラがわずかに見られるだけでした。2006年まで生き残っていたオオバコは、人があまり歩かないロープ柵の周囲に多く分布していました。オオバコの実生の多くは定着できずに死亡し、成長後も様々な攪乱やストレスで死亡していくことが知られています。気象条件が厳しいと考えられる室堂では、特に踏みつけの多い場所で死亡する個体が多かったものと考えられます。

室堂の調査区で2005年に芽を出したオオバコは、その後の2年間で個体数が減少しましたが、生き残った個体の多くは個体サイズが大きくなっていました(図2)。個体サイズの指標として調べた葉の枚数や葉の長さ、葉の幅、葉の長ささと葉の幅を掛け合わせたものなど、すべての指標でサイズが大きくなっていました。

調査区内で開花した個体数は、2006年には2個体でしたが、2007年には7個体に増加しました。多くの植物には開花成熟するために必要な大きさ(開花の臨界サイズ)があります。オオバコでも、開花の臨界サイズが存在すると考えられているのですが、室堂では芽を出した後1年以内では開花できるサイズにまでは成長できず、開花には芽を出してから1年~2年、あるいはそれ以上の期間が必要と考えられました。(開花個体と非開花個体の個体サイズを比較すると開花個体の方が大きくなっていました)。

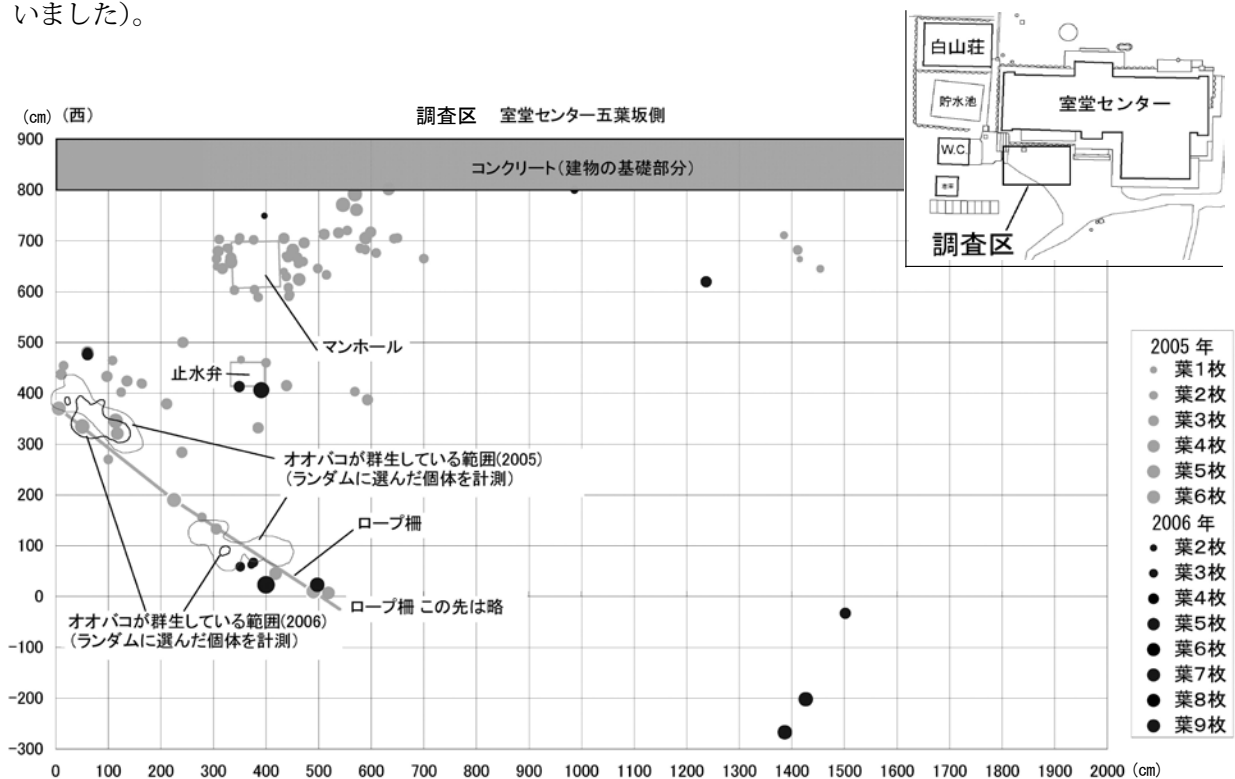


図3 2005年と2006年に室堂の五葉坂側入口付近で確認されたオオバコの位置

南竜ヶ馬場では、2005年からボランティアによるオオバコの除去作業が行われています。オオバコの除去方法としては、地表面の土砂を掘り起こすことのないように、根切などの用具を使って地上部のみを切除しています。その効果を検証するために、南竜ヶベン前に50cm × 50cmの調査区を2個設置し、2005年10月6日に同様の方法で地上部を除去して(写真1)、その後の群落の変化を1年間観察しました。すると、翌2006年7月27日には発芽している個体を確認されました(写真2、3)。同年8月27日には、除去区外ではオオバコは開花していましたが、除去区には開花したオオバコはありませんでした(写真4)。しかし、同年9月26日には除去区でもオオバコは開花を始め(写真5)、同年10月20日の除去区では開花や結実しているオオバコが見られました(写真6)。ケビン前は雪どけも早く日当たりもよい場所であり、コンクリートによる輻射熱により周囲より温度が高い可能性があります。亜高山帯でもこのような場所では、オオバコは芽を出した当年中に開花・結実できることが明らかになったのです。

砂防新道から室堂に至る登山道でのオオバコの侵入・定着状況

弥陀ヶ原（標高 2,330 m）の木道脇や黒ボコ岩（標高 2,320 m）の周囲で何度となくオオバコが確認されています。しかしながら確認された翌年には姿を消しており、定着するには至っていないようです。一方、それらより標高の低い砂防新道の登山道工事箇所（標高約 2,140 m）や南竜水平道の土砂が投入された地点（標高約 2,090 m）では、確認された後、消失することなく開花する個体も現れ、その後も個体数が増えるなど定着しているようです。

オオバコが新たに確認されたこれらの地点は、近年に木道が設置されたり建造物が改修された場所です。白山の亜高山帯や高山帯でオオバコは、これらの工事に伴って分布を拡大していると考えられます。したがって、低地から建築資材等運び上げる際に種子の付着・混入に注意するのはもちろん、低地性植物の定着した場所からの土砂の移動は亜高山・高山帯の中であっても避けるべきだと考えられます。白山では今後も亜高山帯や高山帯において登山道整備の工事が予定されているので、工事終了後からオオバコを含む低地性植物の侵入状況を監視し、侵入が確認された場合には早急に除去して、低地性植物の分布拡大を防いでいくことが必要と考えます。

今後のオオバコ対策

オオバコでは、標高 600 m では実生から当年中に開花が可能になるが、標高 2,000 m に移植されたものでは 5 年後でも着花しないという報告があります。しかし、先ほど紹介したように白山では、高山帯の室堂において芽を出してから 2 年目に開花・結実する個体がみられました。また、南竜ヶ馬場では、オオバコの生長に条件がよい場所である可能性はありますが、亜高山帯であっても条件次第では芽を出した当年中に開花・結実できることが明らかになったのです。

オオバコは、生育条件がよければ 1 年で 1 個体から 2,000 ~ 8,000 粒以上の種子を生産します。白山の例ではありませんが、富山県の立山に侵入しているオオバコでは結実期に個体あたり 302 ~ 1,552 粒（弥陀ヶ原、標高 1,960m）および 141 ~ 2,848 粒（天狗平、標高 2,300m）の種子を付けていたそうです。このことから、オオバコは白山の亜高山帯や高山帯でも多量の種子を生産できると考えられます。種子が多ければ多いほど、それだけ定着できる個体は多くなっていくはずですが、最初にも述べましたが、オオバコなどの低地性植物は踏みつけや刈り取りなどのある人為的攪乱環境に適応した雑草で、いったん定着してしまえば完全に除去するのは容易ではありません。したがって、室堂のように侵入の初期で個体数の少ない段階では開花・結実前にすべて除去するのがよく、南竜ヶ馬場のように、すでに広範囲に分布しているところでは、葉の枚数やサイズから開花可能と判断できる個体を優先的に駆除して分布拡大を防ぐことが重要と考えます。

今年も白山では白山外来植物対策事業として、ボランティアによる低地性植物の除去作業を予定しています。特に今回は南竜ヶ馬場で確認されたハクサンオオバコ（高山植物）とオオバコとの雑種個体やオオバコを重点的に除去したいと考えています。登山をした後の作業ですので大変だとは思いますが、多くの方に参加していただければと思います。

白山外来植物除去作業ボランティア募集

白山に侵入してきたオオバコやスズメノカタビラなど外来植物（低地性植物）の除去作業を行うボランティアを募集します。

	日時	場所（集合場所）	料金	定員
白山外来植物除去作業 in 南竜ヶ馬場	8月22日（土） ～23日（日）	白山 南竜ヶ馬場 （南竜ビジターセンター）	4,000円（1泊3食）	50
白山外来植物除去作業 in 室堂	9月5日（土） ～6日（日）	白山 室堂 （白山室堂センター）	4,000円（1泊3食）	50
白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬	9月27日（日） 13:00～16:00	白山市白峰（市ノ瀬） （市ノ瀬ビジターセンター）	無料	100

- ◎ 7月22日（水）から、電話、FAX、E-mailにて受付開始
- ◎ 雨天決行ですが、日程等は変更される場合があります
- ◎ 環白山保護利用管理協会と主催

白山麓の植物を探る 1 ～サツキ～

本多 郁夫（石川県地域植物研究会）



写真1 手取川の岸壁に咲くサツキ

手取川の岸壁のところどころに燃えるようなサツキの花が見えます（写真1・2）。写真1では水面から4～5mまでのサツキが生育する場所には他の木はあまりありませんが、それより高いところには木が茂っています。このようにはっきり植生が変わっているのは、ここまでが増水したときに洗われる範囲で、いわゆる「けいりゅうたい溪流帯」だからです。サツキはそんな溪流帯に自生するという生態をもち「溪流沿い植物」と呼ばれています。

ところが興味深いことに、蛇谷の川面から数百mも離れた白山スーパー林道の急崖にもサツキが点々と生えています。おそらく雨水が滝のように流れることにより、増水した溪流と似たような環境になるので、サツキが生えるのではないかと考えています。



写真2 岸壁に生えるサツキ



写真3 白山スーパー林道のサツキ



写真4 花冠の上部には蜜標がある



写真5 蜜標の中心には深い溝がある

花冠の上部にはアゲハチョウ類に蜜のありかを教える蜜標みつひょうと呼ばれる斑紋があります(写真4)。蜜標の中心部には深い溝があり(写真5)、その奥には蜜が貯まっています(写真6)。

チョウが蜜を得るためには、この溝に口を差し込んで奥の蜜を吸わなければなりません。そのとき、上向きに反った雄しべから出た花粉がチョウの体に付きやすくなります。一方、花粉が雄しべの葯やくから出る様子は、ゾロゾロとつながってこぼれているように見えます(写真7)。それもそのはず、花粉は4個が1組でピラミッド型にかたまり、粘着糸という糸でつづられているからです(写真8)。「花に秘められたなぞを解くために」の著者田中肇氏によれば、チョウは体が鱗粉でおおわれていて、花粉が付きにくいので、花粉の一部でも引っかかったら、一度に多量の花粉を運ばせようとの巧妙な仕組みだということです。



写真6 溝の奥は広くなり、蜜が貯まっている

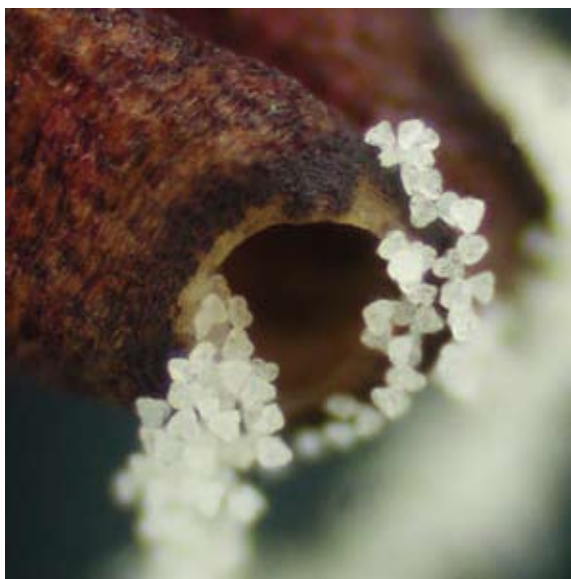


写真7 葯から花粉がゾロゾロと出てくる



写真8 花粉の塊が粘着糸でつづられている

ブナオ山観察舎作品コンテスト 結果発表

白山自然保護センターでは、昨年に引き続き、平成21年1月から3月まで、ブナオ山観察舎で感動したこと、体験したこと、観察したことなどを表現した作文、絵、写真などの作品を募集する作品コンテストを行いました。その結果、兵庫県、奈良県、滋賀県など県外の方や県内では輪島市、珠洲市、加賀市、白山市の小学生や一般の方から応募があり、応募総数は192点に及びました（昨年度63点）。応募作品の中から、作文の部、絵画の部、写真の部の3部門で、部門ごとに最優秀賞1点、優秀賞1点、入選3点（写真の部2点）の合計14点を選定しました。

作文の部

作文の部の応募は、124点で最優秀賞は中澤貴志さん（奈良県）の「ブナオ山観察舎での思い出」。優秀賞は谷口大和さん（奈良県）の「力強いニホンカモシカ」。入選は角屋いづみさん（輪島市）、廣瀬由妃乃さん（輪島市）、福田朋寛さん（白山市）（入選作品の順序は五十音順）の作品が選定されました。

最優秀賞：奈良女子大付属小学校 4年 中澤貴志（奈良県奈良市）

ブナオ観察舎での思い出

ぼくは、学校の白山スキー合宿の中の学習としてブナオ山観察舎に行きました。その時、舎の中でたくさんの発見や感動を体験しました。

一つ目は、目が痛いくらいに、雪につつまれたブナオ山が美しいことです。雪で白くおおわれている中でところどころに葉が落ちた木や黒い岩がある風景は、生まれて初めて見る美しさでした。

二つ目は、雪の寒さに耐え、生きている野生動物を見たことです。ぼくは、ニホンカモシカは「シカ」とつくぐらいだから、ぼくの住む奈良市の公園に生息するシカと同じように毛は茶色で角が長く、枝分かれしているような動物かと想像していました。しかし、実際には、角は1本で15cmほど、毛の色は灰色だということが観察から分かりました。

三つ目は、動物の力強さと生命力に感動したことと、それを見守っていくことの大切さに気づいたことです。人間の開発のせいで餌が少なくなる一方、動物たちは一生懸命に生きていることが分かりました。人と野生生物が共存するのはむずかしいけれど、ぼくたち人間と同じ貴重な命が失われていくようなことがないようにするにはいけないと考えさせられました。

観察のあと、かんじき体験をさせていただきました。ぼくたちが、はいているくつで歩くよりも雪の上を歩きやすく、その効果ははっきりと分かりました。材料はマンサクやタケなどの曲がりやすい木を使っていると教えていただきました。最初はこんな木の枝だけでできたはき物なのに、本当に効果があるかどうかうたがってしまいましたが、はいてみるとあまり足が沈まない上にじょうぶで折れそうにありませんでした。ぼくは、このことで、昔の人たちの知恵はすごいなあと感心させられました。

ぼくは、あまり雪を見たことがありません。そこで、こんな貴重な体験ができて自然のすばらしさや雪国の知恵をあらためて実感できました。このブナオ山観察舎での思い出は、ずっと忘れずに心の中にとっておきたいと思います。

優秀賞：奈良女子大付属小学校 4年 谷口大和（奈良県奈良市）

力強いニホンカモシカ

平成20年2月19日にブナオ山観察舎に行って、ニホンカモシカを見ることができました。

ぼくが見た時、カモシカはゆっくりと腰をおろして落ち着いて草を食べていました。その時ぼくは、こんなにたくさんの雪があり、なだれが起こる可能性もあって自分の命が危ないかもしれないのになぜこんなに落ち着いていられるか不思議に思いました。もしかして、カモシカはなだれが起こらない所を知っていて、そこで草を食べているのかなあと思いました。

草の食べ方は、人間のように上下に口を動かしてかむのではなく、左右に口を動かしてすりつぶして食べていました。木もすりつぶして食べていたので、とても強い歯だと思いました。カモシカが時間をかけてゆっくり食べるのは、カモシカはウシ科の動物で消化する時間が長いからだということもよく分かりました。

それに、真っ白な雪の中にいるのに全然寒そうに見えなくて、胴全体にはえている茶色っぽい毛と足にはえている毛、おしりのふさふさした毛がとても暖かそうでした。雪の中のニホンカモシカは、とてもゆったりしていて、きびしい自然の中でとても力強く生きているのだなあとと思いました。そんなニホンカモシカを見て、ぼくもゆったりとした気持ちになることができました。

そして、力強く生きているニホンカモシカを見たことで、「ぼくもがんばろう」という気持ちになりました。ぼくは、ブナオ山でニホンカモシカを見ることができて本当によかったと思っています。

入選：輪島市立町野小学校 6年 角屋いづみ（輪島市）

たくさんの命があるブナオ山

私は、スキーを山の高い所でするためにゴンドラに乗っていました。途中でカモシカを見ました。その時私は、もっと近い所で見たいと思いました。

その思いをかなえてくれたのが、ブナオ山観察舎です。観察舎には双眼鏡がたくさんあって、たくさんの生き物たちを観察できるようになっていました。私が、双眼鏡をのぞいて最初に見た生き物、それはニホンザルです。私が見たときは、木の上にはいました。何をしていたか分からないけど、木の上でゴソゴソしていました。次に見たのは、私よりもっと近い所で見たいといっていたカモシカです。カモシカは親子で仲良く並んでいました。子供のカモシカは親と比べると小さくてかわいかったです。

ブナオ山観察舎の1階にニホンザルとカモシカのはく製がありました。このはく製は生きているように見えました。

ブナオ山には、私達がまだ見ていない生き物達が住んでいます。その自然を守っているのは白山自然保護センターの方々だということを知りました。こんな貴重な体験ができたことを心から感謝しています。こんな美しい山を私達が守っていけば、もっとたくさんの人にブナオ山のすばらしさを伝えられるかなと思いました。

入選：輪島市立町野小学校 6年 廣瀬由妃乃（輪島市）

かんじきパワー

ボコボコボコ
かんじきはいて
雪の上
キシキシキシ
途中ではずれて
ズボボボボ
こしまではまって
雪の中
あんなただの木輪っか
はく、はかないで
大ちがい
かんじきパワー



入選：白山市立松任小学校 3年 福田朋寛（白山市）

かもしかの
足あとさがし
雪の上

（作文の部の作品は、読みやすくするため、改行するなど、文章の一部を変更したところがあります。）

写真の部

写真の部の応募は6点で、最優秀賞は佐藤貴文さん（滋賀県）、優秀賞は佐藤和彦さん（滋賀県）、入選は岡本和子さん（兵庫県）、佐藤利宏さん（滋賀県）の作品が選定されました（写真の部は応募数が少ないため、入選は2点としました）。



最優秀賞：佐藤貴文さん（滋賀県）



優秀賞：佐藤和彦さん（滋賀県）



入選：佐藤利宏さん（滋賀県）



入選：岡本和子さん（兵庫県）

絵画の部



絵画の部の応募は62点で、最優秀賞は藤川恭子さん(白山市)、優秀賞は大丸藍さん(珠洲市)、入選は、小枝和喜さん(加賀市)、田中有彩さん(輪島市)、山本佳愛さん(輪島市)の作品が選定されました。

最優秀賞：
藤川恭子さん
(白山市)



優秀賞：大丸藍さん(珠洲市)



入選：小枝和喜さん(加賀市)



入選：田中有彩さん(輪島市)



入選：山本佳愛さん(輪島市)

入賞作品は7月より中宮展示館で展示しますので、ご覧下さい。



白山自然 ガイドボランティア

ガイドウォーク始まる

白山市中宮の中宮展示館と同市白峰の市ノ瀬ビジターセンターで5月の連休からガイドウォークが始まりました。

白山自然ガイドボランティアの皆さんが交代で担当し、来館者を周辺の観察路にご案内し、白山の自然の美しさや不思議に触れてもらいました。中宮展示館では蛇谷自然観察路、市ノ瀬ビジターセンターでは岩屋俣谷園地などを回り、春一番の花などを観察しました。

連休後は職員が案内し、7月中旬からは再びボランティアの皆さんが担当します。

これ、何やらね！



観察路で見つけたものを説明するガイドさん
(5月3日、中宮)

ガイドウォーク 中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンターで土日、祝日に実施。白山自然ガイドボランティアや各館職員が周辺の自然をご案内します。時間は午前10時、午後1時から1～2時間。**参加無料**。参加申込は当日、カウンターへ。団体の場合は事前に連絡を。



これかじったのは、誰？



観察路に落ちていた穴のあいたクルミについて話すガイドさん
(5月3日、市ノ瀬)

研修講座

春を見つけよう

白山自然ガイドボランティアの平成21年度第1回研修講座は4月11日、白山市白峰の白山国立公園センターで開かれ、ガイドボランティア活動の現地研修を行いました。

「春を見つけよう」をテーマに参加者は同センター近くの御前山を歩き、早春の花や木々の芽吹きを観察しました。御前山の頂上からは雪を頂いた白山も見る事が出来、自然の息吹を五感で味わい、今後のガイド活動に役立てることにしました。



春一番の花を観察する参加者



ブナオ山観察舎のキャラクター・かもちゃん

しぜん もりだくさん

県民白山講座

中谷宇吉郎と白山の雪形

雪の不思議、面白さ



Dr. ナダレンジャーに扮した納口恭明氏

「中谷宇吉郎と白山の雪形」は4月25日、宇吉郎の生誕地である加賀市の片山津地区会館で53人が参加して開かれ、宇吉郎の足跡を振り返るとともに、白山の雪について最新の研究成果を紹介しました。

防災科学技術研究所の納口恭明総括主任研究員が「雪氷の面白さを伝える」、小川弘司県自然保護課主幹が「白山の万年雪と雪形」、加賀市中谷宇吉郎雪の科学館の神田健三館長が「ふるさとの中谷宇吉郎」と題して講演しました。中でも納口氏は「Dr. ナダレンジャー」に扮し、遊び心いっぱい雪のメカニズムに迫るなど、ユニークな講演が参加者を引きつけました。

ブナオ山観察舎

20年度 シーズン終了

平成20年度のブナオ山観察舎は20年11月20日から21年5月6日まで開館しました。この間、2,399人が訪れ、ブナオ山の野生動物の観察や、かんじきをはいて雪の森を歩くミニ観察会を楽しみました。

観察された動物はニホンカモシカやニホンザルをはじめ、鳥ではイヌワシやクマタカなど、厳冬を生きる野生の姿が来館者を感激させました。ブナオ山の斜面に若草が生えだすとツキノワグマも姿を見せました。今年は特に多く4月15日から開館最終日の5月6日まで連続22日間も観察されました。館内では「熊ウイーク」として特別展示も行い、クマを目当てに訪れる人も多くいました。来季は今年11月20日に開館の予定です。(編集 谷野一道)

クマ見えた！連続22日間



若草を食べるツキノワグマ (4月18日)

センターの動き (3月27日～6月18日)

- | | |
|--|----------------------------------|
| 3.27 幼児活動研究会 (ブナオ山観察舎) | 5.23～24 白山スーパー林道ウォーク |
| 4.11 白山自然ガイドボランティア研修会第1回 (国立公園センター) | 5.27 白山別当谷安全協議会 (白山市) |
| 4.16 NHKテレビ放送「はくさん季節のたより」出演 毎月第3木曜デジタル百万石で放映 (本庁舎) | 5.28 金城大学短期大学部 講師 (白山市) |
| 4.20 応客接待研修 (講師 加賀屋客室係教育リーダー) (本庁舎) | 5.29 モニタリングサイト1000第1回検討会 (東京) |
| 4.21 白山自動車利用適正化連絡協議会 (本庁舎) | 5.29～30 植物地理・分類学会 (富山市) |
| 4.25 県民白山講座「中谷宇吉郎と白山の雪」 (加賀市) | 5.29 白山自然ガイドボランティア自主研修 (チブリ尾根) |
| 4.28 ミチノクフクジュソウ調査 (勝山市) | 6.6 白山自然ガイドボランティア自主研修 (チブリ尾根) |
| 4.29 中宮展示館、市ノ瀬ビジターセンター開館 | 6.7 モニタリングサイト1000昆虫調査打ち合わせ (本庁舎) |
| 5.6 ブナオ山観察舎閉館 | 6.11 甚之助避難小屋建替現地検討会 (甚之助小屋) |
| 5.21 NHKテレビ放送「はくさん季節のたより」出演 | 6.11 金城大学短期大学部 講師 (白山市) |

センター主催行事のお知らせ

白山麓里山・奥山ワーキング

白山中宮道 ブナ林観察と草刈り

日程：7月11日(土) 9:00～15:00

集合：中宮温泉(白山市中宮)

定員：50名

内容：草刈り作業の体験を通して、白山の環境保全について理解を深めます。

白山外来植物除去作業 in 南竜ヶ馬場

日程：8月22日(土)～23日(日)

集合場所：南竜ビジターセンター

定員：50名

内容：白山に侵入してきたオオバコやスズメノカタビラなど外来植物(低地性植物)の除去作業を行います。

白山まるごと体験教室

化石で探る太古の白山

日程：7月26日(日) 9:00～15:00

集合：白山自然保護センター
(白山市木滑)

定員：30名

内容：化石や地層を観察して太古の白山について考えます。

秋の音、ネイチャーコンサート

日程：9月19日(土) 13:30～16:00

集合場所：中宮展示館(白山市中宮)

定員：50名

内容：鳥のさえずりや川の音、そして、野外での演奏。自然の中に浸り、いろいろな音を楽しみます。

県民白山講座

白山の魅力ー白山火山と高山植物ー

日時：7月18日(土) 13:30～15:30

会場：県立生涯学習センター能登分室
(輪島市三井町)

定員：40名

内容：石川県民大学校能登校「いしかわを知る講座」の1つとして開き、能登の方を中心に白山火山や高山植物など、白山のすばらしい自然を紹介します。

申し込み・問合せ

いずれも申し込みが必要で、定員に達し次第締め切ります。詳しくは石川県白山自然保護センター(076-255-5321)まで。

ライチョウ 70年ぶりに白山で確認

国の特別天然記念物であり、国内希少野生動植物種に指定されているライチョウを6月2日に白山で確認してきました。1930年代の複数の目撃情報以来、約70年ぶりの確実な記録となります。5月26日に登山された一般の方から6月1日にセンターへ写真提供があり、発見者から話を伺い、翌日調査のために登ってきました。発見現場近くへ着いてすぐに、ガンコウランやコケモモを採食中の雌のライチョウを確認しました。

今まで長年白山の自然を調査してきましたが、まさかこの鳥が現れるとは思ってもみませんでした。生息地である北アルプス等から飛来したと推定されます。一度に長距離を飛べない鳥ですので、途中の山岳で休み休み無事たどり着いたのでしょう。今までにも来ていた可能性があるので、目撃情報の提供をお願いしたいところです。このライチョウが少しでも長く、元気に生活してくれるよう、登山者みんなで静かに見守っていききたいものです。(上馬)



編集後記

本誌は、今巻から、読者の皆様に白山のよさをより分かりやすく感じていただくため、16ページ中8ページがカラーでの出版となりました。前巻150巻までの伝統を受け継ぎながら、白山自然保護センター普及誌「はくさん」が皆さんに広く愛されるよう、より良い内容にしていきたいと考えています。これまで同様、よろしくお願ひ致します。(吉本)

はくさん 第37巻 第1号(通巻151号)
発行日 2009年6月18日(年4回発行)
編集発行 石川県白山自然保護センター
〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ4
TEL.076-255-5321 FAX.076-255-5323
URL <http://www.pref.ishikawa.jp/hakusan/>
E-mail hakusan@pref.ishikawa.lg.jp
印刷所 前田印刷株式会社